

### 【 モデルコース 】

#### 防災ウォークプログラム 半日コース ~久慈市内小学校の実践事例~

所要時間 90 分

- ▶ 9:45 野田村役場に集合、出発
- イントロダクション 野田村復興展示室 (野田村の基礎情報提供、一日の流れ確認)
- ウォーク1 野田漁港エリア(荒海ホタテ、のだ塩などの生産再開や避難場所の体感)
- 「ウォーク2 新町エリア(高台移転と住みよい団地造成の秘密)
- <u> ウォーク3</u> 十府ケ浦公園エリア (広々とした公園に隠された防災まちづくりの工夫)
- ◆ クロージング ほたてんぼうだい (大津波祈念碑の前にて教訓を刻む)
- ▶ 11:15 道の駅のだにて買い物、解散

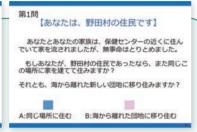
#### ∼学校に戻ってからの振り返り学習≈ (出前講座)

野田村を訪れて学んだことを整理するととも に、「もし自分が野田村の住民だったら」、また「も し自分の住む地域で災害が起こったら、どう行 動するか」を想像するワークショップを実施し、 実践的な防災行動につなげます。

災害はなにを引き起こすのか

- ①失われたもの
- ②新たに生まれたもの
- ③変わらないもの

振り返りのポイント例



ワークショップテーマ

#### 防災ウォーク&ワークショッププログラム 終日コース ~八戸市内町内会の実践事例~ 所要時間 6 時間

- ▶ 10:00 野田村役場に集合、出発
- ~体感する~ 防災ウォークプログラム (見開きページ参照) フルコース実施
- ▶ 12:15 野田村内食事処にて昼食休憩
- ▶ 13:30 野田村生涯学習センターにてワークショップ
- ~思考する~

#### ワークショップ事例① クロスロード

実際の災害時に直面しうる悩ましい選択(分かれ道)の中 で意思決定をするワークショップ「クロスロード」。正解のな い問題について、互いの考えを伝え合うことで、多様な価値

あなたは、70歳の足の悪い母、夫(妻)、

小学生の子ども2人の5人暮らし。 夜中の2時。 雨がひどく 周辺の道路は浸水してきて 川のように流れており、水位はどんどん上がってきています。 避難所は500m離れた場所にあります。 あなたは、家族で避難しますか?

避難する→ 避難しない→

観に気づいたり、望

ましい解決策を探っ たりしながら、自分 の判断・決断を磨 いていくことができ

▶ 16:00 道の駅のだにて買い物、解散

#### ワークショップ事例② 災害シミュレーション

災害が発生するとどんなことが起こるのかについて 想像しながら、具体的な事象や行動を書き出していく ことで、その実態をイメージしていく「シミュレーション



ながら、漠然 と考えている ことを可視化 していくことで、

行動変容へと導くことが期待できます。

#### 参加者の声

いつ、どこで、何が起こるかは誰にも 予想できないことを知ったので、避難場 所を確認するなど、できる対策をイメー ジしたいなと思いました。(小学校6年生)

災害が起きて避難する直前に準備す るのではなく、前もって準備しておくこ とが大事であることを知りました。

(小学校6年生)

震災から前を向いているような感 じがして、過去のおそろしい記憶な どから前を向かなければいけないと いう勇気をもらった。 (高校生)

元の状態に戻すことが復興ではな く、以前よりも良い暮らしになるよう にバージョンアップすることが重要で あると学んだ。 (30 代男性)

災害についていかに自身が認識 不足で無知であるかを気付くきっ かけとなった。 (30 代里性)

震災直後は白黒だった街が、色 付いてきたことを実感できた。ま た備えに対する認識を改めること ができた。 (50代女性)

漁港での船のエピソードや漁師 さんたちの葛藤の取り組みを聞い て胸が熱くなりました。

(50 代男性)

ワークショップ プログラム」の



# 未来の「いのち」へ生かす "時速3km"の震災学習



野田村 未来づくり推進課 〒028-8201岩手県九戸郡野田村大字野田20-14 TEL 0194-78-2963 FAX 0194-78-3995



『いざというとき、自分自身の足で、自分と他者の命を守る行動ができる人を育てたい』。そんな願いを込めて、野田村では『歩くこと』を軸に学びのプログラムを展開しています。村内には、「津波被害の爪痕を伝える震災伝承施設」「発災当時も避難に活用された避難道」「未来の命を守るために整備されたまちづくりの工夫」など、様々な学びを得ることのできる場所が散りばめられています。

歩くスピードで災害の現場を体感するフィールドワークと、実際の災害時に直面する悩ましい選択について共に考えるワークショップなど、「体験」と「思考」をパッケージとした内容で、参加者からも大変好評を得ており、「ぜひ今後も参加したい」という声を多数いただいています。

単に震災の被害を伝えるだけではなく、参加者自身の防災意識につな げる充実のプログラム。「自分自身の命の備えや平時の暮らし方に対する 気付き」を、ここ野田村で探しに出かけましょう。 イントロダクション

## 被災から復興までの歩みと村の地形をとらえる「野田村復興展示室」

津波の被害状況や教訓、復興の足跡を将来に語り継ぐためにつくられた展示施設を見ることからプログラムを開始します。震災前の村の様子と発災から復興までの歩みを大まかにとらえ、実際に街を歩くためのイメージを形成します。

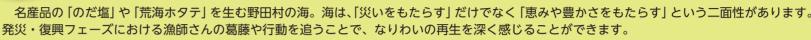
得られる気づき

○映像で見る津波の威力・復興までの軌跡 ○野田村中心部の震災前の街並みと現在の比較



ウォークモデル 1

# 水産業の復興(なりわいの再生)を学ぶ「野田漁港エリア」



得られる 気づき

○発災時の人々の行動様式 ○津波災害からの水産業の再興

○すべてを失っても立ち上がった漁師さんたち(人間)の力強さ

歩き方

岸壁から漁船や海を眺め、再建した市場を通り、当時 漁師さんが逃げた台場公園(高台)に上って、その高さ と海との距離感を体感します。

/オークモデル **ク** 

# 高台移転地から住まいの再建を学ぶ「新町エリア」

市街地に住んでいた方々の新しい住まいの確保のために、山を切り開き、文字通り新しく宅地造成された新町地区。住民間のプライバシーへの配慮やコミュニティ再生、空間を広く利用するための都市計画(デザイン)の工夫が随所に見られ、新たに住みよい街を創造することの大切さが感じられます。

得られる 気づき 安心安全に暑らしたいと願っ人々の思い 震災前より、さらに良い街を作るビルドバックベターの考え方

心地よく暮らすことのできる住まいのデザインの仕方

歩き方

エリアの中心にあるコミュニティセンターから歩き始め、周囲の家々を眺めながら、そのまちづくりの工夫を見つけていきます。



# 災害に強いまちづくりを学ぶ「十府ケ浦公園エリア」



プログラムの

流れ

村は、今後来たる津波から住民の命と財産を守るために、「防潮堤」「国道・鉄道」「公園盛土」の3つの堤防機能により、住民の避難の時間を確保しています。日常の憩いと有事の避難の両方がデザインされたエリアを歩き、災害と共存する暮らしとは何かを感じることができます。

得られる 気づき

○災害に強いまちづくりの工夫

復興まちづくりに関わった地域内外の多くの人々の思い

歩き方

防災緑地 (公園) から線路の下をくぐって防潮堤の上を歩き、その高さの違いを体感します。砂浜に下りて海を感じられるほか、海岸清掃活動などを組み合わせることもできます。



ウォークモデル **Δ** 

# 発災時の避難行動とその後の暮らしを学ぶ「下安家エリア」

サケヤマスの孵化場がある下安家地区。海と川が近いエリアに住む住民が実際に使っている避難道を歩き、実際の時間やその高低さ、所要時間などを体感することができます。また、実際に使われた仮設住宅を見学し、その住まい方(広さ・寒暖・景観)などを知ることもできます。

得られる 気づき 実際の避難行動の疑似体験 仮設住宅での暮らしぶりと住まいの再建 歩き方

安家川流域の下安家漁協付近から、避難場所/避難所である国民宿舎えぼし荘を目指して坂道の避難道を上ります。



# 災害の爪痕と鎮魂の祈りを捧げる「米田エリア」

3つの震災伝承施設が集まる米田地区。破壊された歩道橋の一部や「22.5m」の津波到達高の表示は、言葉以上に人々の心に様々なものを訴えかけます。最後は、ほたてんぼうだいにある大津波記念碑の前で、津波の教訓を心に刻み、自身にも起こりうる災害へのイメージへとつなげます。

得られる 気づき )津波災害のすさまじい威力 )後世の命を救うためにつなぐ教訓と願いの数々

歩き

三陸鉄道「十府ケ浦海岸駅」付近から、壊された歩道橋の一部、津波到達高を示した水門などを見ながら、大津波記念碑のあるほたてんぼうだいを目指して歩きます。



下安家 サケ・マスふ化場・ 小野旅館

普代村·堀内→(

#### フォローアップ

# 災害を他人事から、自分事に変える「事後ワークショッププログラム」

防災ウォークを通して学んだ野田村の事例を踏まえ、「もし、自分だったら」という立場に立って災害を考えるワークショップに臨みます。「クロスロード」と「災害シミュレーション」という2つのプログラムを用意しており、実際の災害場面で起こりうる状況を具体的に想像することを通して、参加者自身の日常の行動変容につなげます。

得られる気づき

**災害に直面した時の具体的な行動イメージ ○日常から「備える」ことの重要性**